

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
Q201	異文化理解	2年	講義	2	本年度不開講
授業概要 文化とは何だろうか。そして異文化を理解するとはどういうことを指すのだろうか。世の中はグローバル化していると言われる。そうした世の中を生きていくうえで、異文化理解の能力は必要不可欠となる。本来そうした能力は人が人生経験を積み重ねることで身につけていくものである。この講義では、事例研究を読んだり、グループによるシミュレーションを行ったりすることによって、疑似体験を重ねていく。グループディスカッションなどを頻繁に行い、実際の場面に遭遇したときの対応方法を考える。					
到達目標(学習の成果) ・異文化と接触したときの対応について理解が深まり、戸惑わずに行動する方法が身につく。(DP1「コミュニケーション力」) ・実際の観光業の分野で異文化に接触する事例を学び、その対応策を見つけ出す能力が身につく。(DP3「問題解決力」)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	文化とは	文化とは何か、考えてみよう。「文化相対主義」とはどういった概念か。ステレオタイプとはどういう意味か。			
2	異文化交流の歴史	世界史、日本史の中で文化交流の歴史を振り返ってみよう。			
3	日本文化とは	日本文化と聞いて何を思い浮かべるか。ひとことで日本文化と言ってもそのなかにはさまざまな文化がある。			
4	異文化接触、カルチャーショック	異文化に接触したとき人間が取る行動について学んでみよう。			
5	異文化適応	異文化に適応するとはどういうことか。事例を読みながら考えてみよう。			
6	異文化理解シミュレーション	実際に異文化を体験してみる。その後、グループの中で、その体験、その場で感じたことを話し合ってみよう。			
7	海外旅行で起こる摩擦	事例研究を読み、海外旅行で起こる文化摩擦を考えてみよう。			
8	空間の認識、時間の認識	文化によって空間、時間の認識方法が違うという。どういうことだろうか。			
9	非言語コミュニケーション	言語を使わないコミュニケーションを考えてみる。普段何気なく使っているしぐさが別の意味を持っていたら、どんなことが起こるだろうか。			
10	言語の力	言語とは何だろうか。一つの国の中に異なる言語があったらどうなるか考えてみよう。			
11	異文化コミュニケーション	文化を越えて分かりあうためにはどういった要素が必要だろうか。			
12	異文化トレーニング	文化摩擦を体験したとき、どうやって乗り越えていったらいいか、事例研究をもとに考えてみよう。			
13	グローバル化、アイデンティティ	異文化適応と自己のアイデンティティについて考えてみよう。			
14	差別問題	ヘイトスピーチ、ヘイトクライムについて考えよう。			
15	多文化共生社会	多文化共生社会とは何だろうか。何を指すのだろうか。			

準備学修(授業外の自己学修)

予習用に事例研究の資料を配布することがある。講義はそれを読んできていることを前提に進めるので、指示に従いよく準備しておくこと。また、参考書は図書館にあるので積極的に読むこと。

成績評価の方法・基準(%表記)

講義の中で3回ほど課題を提出してもらう予定である。その課題が各20%。期末試験が40%。

観点	S	A	B	C
異文化接触時の摩擦に関する理解	理解している	ほぼ理解している	問題点を指摘できる	問題点に気づくことができる
異文化接触到に起因する問題に対する対応策	自分自身で対応できる	何人かと相談すれば対応できる	助言を受けると対応可能	主体的に対応するのは難しい

教科書

毎回プリントを配布する。

参考書等

『異文化コミュニケーション・ワークブック』、矢代京子ほか著、三修社、2001年、3,024円

『異文化理解入門』、原沢伊都夫著、研究社、2013年、2,376円

『異文化コミュニケーション・入門』、池田 理知子・E.M.クレマー著、有斐閣、2000年、2,268円

『異文化コミュニケーション・キーワード新版』、古田暁ほか著、有斐閣、2013年、1,944円

『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション 多文化共生と平和構築に向けて』、石井 敏ほか著、有斐閣、2013年、2,160円

『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション 誤解・失敗・すれ違い』、久米昭元、長谷川典子著、有斐閣、2007年、1,944円

履修上の注意・学修支援

授業の中でグループワークなどを多く実施するので、なるべく欠席しないこと。また、グループワークには積極的に取り組むようにする。課題は必ず期限までに提出する。質問事項等があったらオフィスアワーなどを利用し、積極的に問題解決に努めること。